

2005年11月8日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

ジェネリック医薬品市場調査を実施

- ジェネリック医薬品市場は、2007年に2,426億円へ(対04年比119%) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、医療費削減が求められ、新時代を迎えているジェネリック医薬品の調査を行った。ジェネリック医薬品は、より厳しいシェア争いと生産コストの削減が必要な一方で、開発費、宣伝費の拡大が進んでおり参入各社に変革が求められている。調査の結果は報告書「2005年ジェネリック医薬品データブック」にまとめた。

*ジェネリック医薬品・・・新薬の特許満了により承認され発売された、同じ成分同じ効能の医薬品。後発医薬品。これに対して、始めに特許を持っていた新薬を先発医薬品、あるいはオリジンという。

< 調査結果の概要 >

ジェネリック医薬品全体市場

概要	2004年	2007年予測	04年比
国内医療用医薬品	5兆3,166億円	5兆6,104億円	106%
国内ジェネリック医薬品	2,047億円	2,426億円	119%

ジェネリック医薬品の市場は2004年では2,047億円となり、国内医療用医薬品市場の3.9%を占めている。成長率から見ると、医療用医薬品市場が2003年比2%増であったのに対し、ジェネリック医薬品は9%増であり、2007年には2,426億円になると予測される。

ジェネリック医薬品は微増傾向が続く医療用医薬品市場において着実にシェアを広げている市場である。この要因は、2003年以降ジェネリック医薬品の活用を促すための薬事法改正といった行政による医療費削減策が進んでいることが挙げられる。それに呼応する形で新薬系企業が本格的に参入し市場を確立させ、ジェネリック医薬品企業もDTC*を活発化させている。また「メパロチン」(三共)「ガスター」(山之内製薬、現アステラス製薬)といった大型オリジンへのジェネリック医薬品が着実にシェアを奪ったこともある。市場の拡大に伴って、今後の市場競争は更に厳しさが増す事が予測される。今後は毎年多品目を発売できる開発力、効率的に安定供給できる生産力、DTCなどを含めたプロモーション力が全て備わっている事が市場においてより重要となる。

*DTC(Direct To Consumer)・・・一般消費者に対して医療用医薬品を直接プロモーションする施策

ジェネリック医薬品市場領域別シェア上位

領域	2004年	2007年
その他循環器官用剤	14.6%	13.6%
解熱消炎鎮痛剤	12.4%	10.5%
抗生物質	7.9%	7.6%
降圧剤	6.9%	7.8%
高脂血症治療剤	5.6%	5.4%

2004年、ジェネリック医薬品市場の上位は、その他循環器官用剤、解熱消炎鎮痛剤、抗生物質、降圧剤、高脂血症治療剤の順になっている。その他循環器官用剤、抗生物質は、医療費削減から国公立病院でのDPC*に基づく包括支払い方式の流れを受ける形でジェネリック医薬品が採用され、シェアを拡大させている領域である。またこれら領域の上位品目は新薬系企業がジェネリック医薬品を持ち実績を確立している。

降圧剤、高脂血症治療剤、解熱消炎鎮痛剤は上位ブランドのジェネリック医薬品が発売され、大型化した市場である。

2007年も、2004年の順位と同様に、その他循環器官用剤、解熱消炎鎮痛剤が売上げの上位になることが予測される。ジェネリック医薬品は以前のように発売され一回の薬価改定でその市場が終わってしまうのではなく、数回の薬価改定を繰り返し徐々に売上げが小さくなっていくことが予測される。そのため2004年のジェネリック医薬品で市場の大きかった領域は当面売上げを維持していくことが見込まれる。その中で一部のジェネリック医薬品はブランドイメージが確立されロングブランドとして定着していくことが予測される。

* D P C (Diagnosis Procedure Combination) ・ ・ ・ 厚生労働省が作成した新しい診断分類。「診断群別包括払い」、疾病ごとに一日の入院医療費(定額)を決めておく。いくら医薬品を処方しても、検査を行っても定額しか支払われない。

注目ジェネリック医薬品分野

降圧剤

2004年 141億円 2007年予測 190億円(対04年比 135%)

医療用降圧剤市場は、大手製薬会社からの新薬が相次ぎ発売され、年々拡大している。国内の医療用医薬品の市場を牽引する状況である。

ジェネリック医薬品市場も年々拡大し、2004年には141億円となったが、降圧剤市場の中心である「ノルバスク」(ファイザー)やアンジオテンシン受容体拮抗剤といった新薬の伸長が著しいことからジェネリック医薬品のシェアは横ばい状況にある。「レニベース」(万有製薬)のジェネリック医薬品が浸透したように、慢性疾患として長期に処方される薬剤であることや診療所を中心とした市場であることからジェネリック医薬品に対するニーズは高いものとなっている。

泌尿器疾患治療剤

2004年 10億円 2007年予測 70億円(対04年比 7倍)

医療用泌尿器疾患治療剤市場では、前立腺肥大症治療剤が中心となっている。高齢化の進展に伴い、前立腺肥大症、頻尿・尿失禁の患者が1995年以降増加している。この2領域は「ハルナール」(アステラス製薬)の実績が牽引している。

1980年代後半からジェネリック医薬品の上市が本格化してきたが、副作用がある薬剤であることや、現在主流ではない分類の薬剤であることからオリジン、ジェネリック医薬品共に実績は限られたものとなっている。しかし、2005年7月に「ハルナール」、「バップフォー」(大鵬薬品工業=ユーシービー・ジャパン)という上位2ブランドのジェネリック医薬品が発売されたことから今後の実績拡大が期待される。

糖尿病治療剤

2004年 7億円 2007年予測 70億円(対04年比 10倍)

糖尿病治療剤市場は、生活習慣の欧米化や高齢化により最も患者数が増加している市場である。相次いで経口剤及びインスリン製剤ともに新薬が発売され、プロモーションも活発化していることから市場自体も急成長している。今後も武田薬品工業など大手医薬品企業による活発なプロモーションが見込まれ、当面市場の拡大が予測される。ジェネリック医薬品市場は、2004年までは「オイグルコン」(中外製薬)、「グリミクロン」(大日本住友製薬)といった古くからの薬剤に対するもののみとなっており、患者数や市場規模からみてごく僅かな市場であった。2005年、糖尿病治療剤市場におけるトップブランド「ベイスン」(武田薬品工業)及び糖尿病合併症治療剤市場のトップブランドである「キネダック」(小野薬品工業)のジェネリック医薬品が発売され、ジェネリック医薬品のターゲットとなる市場へと変化を遂げている。

<調査対象>

領域編	降圧剤、その他循環器用剤、抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、抗不安剤・睡眠導入剤、抗うつ剤、消化性潰瘍・逆流性食道炎及び胃炎治療剤、高脂血症治療剤、抗アレルギー剤、呼吸器疾患治療剤、糖尿病治療剤、解熱消炎鎮痛剤、抗がん剤、体内診断薬、変形性関節症治療剤、骨粗鬆症治療剤、女性疾患治療剤、泌尿器疾患治療剤（栄養剤、輸液関連、生理食塩水、漢方製剤は除く）
企業編	東和薬品、沢井製薬、大洋薬品工業、日医工、メルク・ホエイ、富士製薬工業、日本ケミファ、大正薬品工業、共和薬品工業、テイコクメディックス、日本化薬、東洋ファルマ - (杏林製薬)、ニプロファーマ、明治製菓、扶桑薬品工業、昭和薬品化工、岩城製薬、小林化工、エルメッドエーザイ、あすか製薬、辰巳化学、三菱ウェルファーマ（吉富薬品）、科研製薬、大原薬品工業、三和化学研究所、旭化成ファーマ、アルフレッサファーマ、日本新薬、日本臓器製薬

<調査方法>

専門調査員による参入企業、関連企業・団体などへの面接取材による情報収集

<調査期間>

2005年7月～10月

以上

資料タイトル：「2005 ジェネリック医薬品データブック」
体 裁 : A4判 304頁
価 格 : 200,000円(税込み 210,000円) CD-ROM付きセット価格 210,000円(税込み 220,500円)
調査・編集 : 株式会社 富士経済 東京マーケティング本部 TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778
発 行 所 : 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp